平成22年10月1日　第266号

# わがまち

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション　あかい新聞店ホームページ http://www.akai-shinbunten.net ＜発行所＞あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎＜0569＞72-0356　常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎＜0569＞35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル

葬儀専用ホール
常滑・青海 瑞雲殿
誠意と真心であんしんのかけはし
CSK葬祭
0120-33-5909
TEL 0569-35-2785
FAX 0569-35-2296
24時間体制完備

Nobuo Murakami

# 元気のでてくる〝ことばたち〟⑭④

## 村上信夫（アナウンサー）

## OKとNGを繰り返している

### ～歌手　福山雅治さん～

**龍馬への思い**

坂本龍馬を好演している福山雅治さんに、収録のわずかな間隙を縫って会うことが叶った。これまで何百という人に話を聞いてきたが、魂の抜け殻状態にされたことは一度もなかった。福山さんと話し終わると、まさにその状態に陥り、それは、翌日まで続いた。すごい「気」の持ち主だ。

大河ドラマ『龍馬伝』が大詰めを迎えている。結末がわかっているからか、見ていても妙にせつない。「いつまでも演じていたい。大団円が近づいてくるかと思うと寂しい」とご当人も思っている。

土佐の名もなき青年が、「新しい日本のしくみ」を作るため、動き出す。仇同士だった薩摩と長州を結びつけるために奔走する。自分の生き方を求めてさまよっていた龍馬が、やっと自分の役どころをみつけ、どんどん成長していく姿は、見ていて胸がすく思いだ。

成長していくにしたがい、演じる福山さんの顔つきも変わってきた。若き龍馬は、「どういたらいいか、わからん」と、自分を持て余し気味だった。暗中模索の青年時代は、答えを探している若いころの自分の姿にダブらせて演じていた。

成長したいま、演じる上では、「純粋な青年をやるより照れずに済む」が、人の心をつかむキャラクターをどう表現するか悩ましい。自然体の演じない演技が求められる中、演技がオーバーになりすぎていないか、「なかなか客観的に自分の役が見られないが、自分なりの龍馬が出来ているかなぁ…」。

これほど、感情のやり取りを大切にするドラマは、これまでの経験にはない。龍馬が、日々の課題を一つ一つこなし、大きなことをなし遂げたように、「僕も、大河という壁を乗り越える努力を、少しずつこなしている。龍馬は、スポンジのように、すべてを受け入れ、吸収していいものを絞り出した人だから、自分も受け入れ続けたい」。

**ふるさと長崎への思い**

ミュージシャンとして、俳優として、ラジオDJとして、さらに、写真家として、女性の憧れの存在として、これだけ多面的な活躍をするアーティストは稀有な存在だ。

1969年の長崎市生まれ。中学生の時、兄に誘われて吹奏楽部に入り、ホルンを吹いていた。兄の影響でギターも始め、バンドを結成した。

長崎工業高校を卒業した後、地元企業に一旦就職するが、数ヶ月で退職した。音楽の夢は捨てがたく、18歳でミュージシャンを目指し、20万円だけ持って、上京した。だが、東京で暮らしていても、ふるさとへの思いは募る。

今回の大河出演も、長崎が舞台になることで、地域が活性化する一助となればいいと思い、引き受けた。

去年8月、長崎の稲佐山で里帰りコンサートを開いた。「長崎は暗い事件が続き、経済も地盤沈下している。経済効果の一助にしたい。恩返しならぬ音返しという気持ちだった」。そして、「かつての僕のように、閉塞感を抱いている若者が、可能性を感じてくれたらいいな」とも考えた。

福山さんのバックボーンは、生まれて18年いた長崎にほかならない。最近、無性に里帰りしたくなる。行くと必ず墓参りをする。先祖を感じ、自分の原点を感じ、リセット出来るような気がするのだ。

「長崎から出てきた福山」と「エンターテイメントの福山」が微妙に出たり入ったり、寄り添ったり、寄り添わなかったりする。「長崎から出てきた福山」と「エンターテイメントの福山」がシンクロする日も来るのだろうか…。

**自分への思い**

1988年、オーディションに合格し、映画で俳優デビューを果たした。1990年には、『追憶の雨の中』で念願の歌手デビュー。順風満帆のスタートを切った。

1993年に、ドラマ『ひとつ屋根の下』がブレイク。『桜坂』が大ヒットしたのは、2000年のことだ。俳優としても歌手としても、大きな評価を受けた。

福山さんは、ラジオのDJの経験も長い。土曜夜の『魂のラジオ』が10年。日曜夕方の『トーキングFM』が15年になる。「気軽にメールで突っ込み入れられたり、電話で恋愛や人生相談に乗ったり、リクエストにこたえて弾き語りしたり、身近なコミュニケーションが取れる場」だから、とても大切にしている。龍馬収録中も、ラジオ番組は欠かさず続けている。

オリンピック通としても知られている。シドニー、アテネ、北京と3大会連続で、民放のオフシャルカメラマンとして活動している。鳥取県境港ゆかりの写真家・植田正治さんとの交流をきっかけに、写真撮影に本気で取り組んでいる。

常に自分の中でOKとNGを繰り返している。「好奇心いっぱいの自分」と「客観的冷静な自分」が交互に出てくる。だから、褒められても、すぐ信じない。調子に乗れない性格らしい。「オリンピック選手で勝てなかったけど、楽しめましたなんて発言は、信じられない」。自分を過大評価せず、冷静に人も自分も見つめることが出来る福山さんと対峙したから、魂を抜かれたのかもしれない。

もう一つ、たまらない魅力が「声」。低くて深い。ストンと思いが心に伝わる。腑に落ちる。龍馬自身の語り口に、多くの人が引き込まれたという。司馬遼太郎は、「人をわなにかけるような言葉ではなく、腹の中でちゃんとぬくもりのできた言葉」と表現している。福山さん自身の話し方も、「腹の中で温めた一つ一つの言葉を、相手の心に置きに来てくれる」から、その心地よさに酔ったのかもしれない。

今年は、歌手デビュー20周年にあたる。この先、福山雅治は、どこへ向かうのか…。「常に変化出来る自分でいたい。40歳になっても、出会いときっかけがあれば、人は変われると思う。龍馬を演じた自分が、これからどう変わるかが楽しみ」。

俳画／イネ・セイミ

NHK

**■村上信夫プロフィール**

NHKエグゼクティブアナウンサー
1953年、京都生まれ。
明治学院大学卒業後、
1977年、NHK入局。
富山、山口、名古屋、東京、大阪に勤務。
現在は、『ラジオビタミン』担当。（ラジオ第一 8：30～11：50）
これまで、『おはよう日本』『ニュース7』「育児カレンダー」などを担当。
教育や育児に関する問題に関心を持ち続け、横浜市で父親たちの社会活動グループ『おやじの腕まくり』を結成。
趣味は、将棋。
著書に『元気のでてくることばたち！』（近代文芸社）
『おやじの腕まくり』（JULA出版局）『いのちの対話（共著）』（集英社）『いのちとユーモア（共著）』（集英社）

好評発売中

**■イネ・セイミプロフィール**

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の（故）川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元（故）村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

**俳画教室開講中**
ところ　常滑屋
とき　月二回　第一・第四金曜日
午後一時～三時
会費　一回　二、二五〇円（三ヶ月分前納制）
問合せ　☎〇五六九（三五）〇四七〇

大人でも上達する！
おとなのフルート教室
入会受付中!!
何か始めたいと思っている貴女。数年後、素敵にフルートを奏でる姿がそこにあります。楽しく個人レッスン致します♪
講師　イネ・セイミ
《フルート奏者　指導歴30年》
1レッスン・1時間5,000円（ティータイム付）
申込み お問合せ　0569-89-7127　seimiine@oasis.ocn.ne.jp

# 慈愛の人・良寛(64)

杉本武之

**良寛物語「おのれ、良寛め！」**

ここ越後にも田植えの時期がやってきました。

良寛さんは、朝早く国上山の五合庵を出て、牧ケ花の庄屋・解良叔問さんの家に向かいました。頭陀袋の中には、叔問さんに渡す「法華経」の書写が入っています。叔問さんは自分の家の広い庭に地蔵菩薩の石像を建てようと考え、その石像の下に埋めるために良寛さんに写経を頼んでいました。昨夜、その大仕事がようやく完了したのです。10年以上も牧ケ花の庄屋役を務め、村の人たちから慈父のように尊敬されている親友の叔問さんのために、良寛さんは3カ月ほどかけて細かい楷書で写経しました。

牧ケ花の解良家までは長く歩かなければなりませんが、良寛さんは、田植えの準備に忙しい農民たちの姿を見ながらさっさと歩き続けました。良寛さんは、お百姓さんを一番尊敬していました。お百姓さんが苦労して作ったお米を食べて自分は生かされている。山田の案山子にも劣る、何の役にも立たない自分がこうして生きていけるのも、すべてお百姓さんたちの貴い農作業のお陰である。それなのに、命の恩人であるお百姓さんたちの暮らしぶりはどうか。この無能な自分よりも貧しい生活を送っているのです。一年中、お米作りに精を出しながら、本人たちは白いご飯を食べることがめったにないのです。ひたすら人のために働いているお百姓さんは、武士よりも、僧侶よりも、ずっーとずっーと尊い。良寛さんは、お百姓さんを見ると、必ず心の中で手を合わせているのでした。

お昼前に、叔問さんの家に着きました。解良家にいる人たちは、みんな良寛さんが好きでしたから、良寛さんが玄関で「こんにちは」と声を掛けると、手のすいていた者たちは我先にと飛んできて、元気よく言いました。

「良寛さま、いらっしゃい！」

奥座敷で叔問さんと向き合って座ると、良寛さんは、頭陀袋から「法華経」の書写を取り出し、「ようやく写し終えました」と言って、叔問さんに手渡しました。叔問さんは恭しく押しいただくと、「本当にありがとうございました。なんとお礼の言葉を申し上げていいのか分かりません」と言いました。目から涙がこぼれ落ちました。

「おのれ、良寛め！」

「あなたには常日頃いろいろお世話になっています。私にできることはこんなことぐらいです。お役に立てて、こんなうれしいことはありません」

「良寛さま、二、三日、ゆっくりしていって下さい」

「そうですか。それでは、遠慮なくゆっくりさせてもらいますよ」

しかし、この日、良寛さんにとんでもない事件が発生したのです。

良寛さんは、女中さんたちの手伝いをして庭掃除をしたり、台所の竈の火加減を見たりした後、誰もいない表座敷で坐禅を組んでいました。静かに時間が過ぎていきました。

突然、一人の僧侶が庭先に現れました。近くのお寺の住職の智海さんです。酒癖が悪く、この日もぐでんぐでんに酔っ払って、解良家にやってきました。どこかの田圃に転げ落ちたらしく、全身泥だらけです。泥まみれのまま表座敷に上がり込みました。そして、坐禅をしている良寛さんを見つけたのです。智海さんは怒り狂って叫びました。

「きさまは良寛だな！おい、乞食坊主、よく聞け！おれはな、智海だ。一度、きさまに言い聞かせたいと思っていたんだ。いいところで会った。いいか、きさまは知らないだろうが、このおれはな、永平寺で修行してきたんだぞ」

「……」

「きさまが備中の円通寺で修行していたことぐらい、このおれは知っているぞ。なるほど、円通寺も、西の方では名の知れた寺だ。厳しい修行で有名だ。だがな、良寛、このおれさまは、何と言っても、日本一の総本山の永平寺で修行したんだ。格が違う。道元禅師が自ら建立した由緒正しい本山だ。そこでみっちり修行してきたんだ。きさまとは、僧としての出が違う。格が違う。重みが違う。ハハハハッ。いいか。良寛、そこのところをよくわきまえて、おれのことをもう少し尊敬してもらいたい」

「……」

「おれはな、そんじょうそこらの坊主たちとは格が違うんだ。おれは、昔の親鸞や日蓮や道元と肩を並べる逸材なんだ。しかし、誰一人として分かってくれない。どうして、このおれが村の連中に尊敬されないのか、良寛、きさま分かるか？」

「……」

「きさまが答えないなら、このおれが答えてやる。それはな、おれが本当に偉いからだ。この村の連中にはとても理解できないほど偉いからだ。それに比べて、良寛、きさまの方はどうなんだ？きさまはみんなから慕われている。きさまは村の連中と同程度の人間なんだ。だから、このおれと違って慕われているんだ。チェッ！面白くもねえ！おれは決めたんだ。おれは何が何でも、わが道を行くんだ。良寛、おれの気持ちが分かるか？」

「……」

酒に酔った智海さんの怒号を聞き付けて、叔問さんや女中さんたちが走ってきました。そして、部屋の敷居のところから、はらはらしながら、二人の僧の様子を見ていました。

「良寛、黙っていないで、何か言え！耳がないのか？口がないのか？おれの言葉が聞こえないのか？何か言ったらどうだ！」

「……」

「うーぬ、おのれ、良寛め！こうしてやる！」

智海さんは、泥だらけの帯を解くと、それを振り上げて、良寛さんを打とうとしました。

「やめなさい！」と叫んで、叔問さんが智海さんに飛びかかり、取り押さえました。それと同時に、良寛さんに奥の座敷に行くように促しました。

「待て、良寛！おれは、きさまを打ちのめしたいんだ！」

「そんな乱暴なことはやめなさい。ここは私の家です。良寛さまを打つなんてことは、この私が、許しません！」と、叔問さんがきっぱりとした口調で言いました。

智海さんは、ハッとした表情になり、頭をうなだれて、外に出て行きました。

叔問さんは、奥の座敷に行って、そっと中の様子を見ました。何事もなかったように、良寛さんは心静かに坐禅をしています。叔問さんは足音を忍ばせて部屋を離れました。

しばらくすると、激しい雷雨が降り始めました。土砂降りの雨音が家中を包み込みました。良寛さんは、立ち上がると、家の人たちが集まっている茶の間に姿を現しました。そして、叔問さんの方を見ながら、小声で言いました。

「さっきのお坊さんは雨具を持って行きましたか？この雨じゃ、さぞ難儀をしていることだろうな…」

「いいえ、雨具なんぞ何も持って行きませんでした。だけど、あんなに泥だらけだったのだから、かえって雨で泥が落ちて、ちょうどいいぐらいですよ、良寛さま」

「そうか…、雨に濡れた方が泥が流れ落ちて、かえっていいぐらいですか…」と言いながら、良寛さんは奥座敷に戻って行きました。雨は少し弱まってきたようです。

**〈杉本武之プロフィール〉**

1939年　碧南市に生まれる。京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。〈趣味〉読書と競馬

# この指とまれ(175)

氏原朝信

**学級通信・文集「スクラム」(6)**

**家族、大好き(兄弟姉妹)**

兄弟げんかをいくらしても兄弟姉妹はいいものです。遊び、けんかをしながら、駆け引き、手加減、兄・姉の強さ、口惜しさ、などを覚え、兄弟姉妹の優しさ・助け合い・愛・絆などを感じ、社会性を身につけていくのです。こうして学んだ子どもは、この小さな世界から幼稚園・保育園、学校という異質な子どもがいる、より大きな世界に入り、兄弟姉妹のものとの違いを学習し、また新たなる社会性を身につけていくのだと思います。

**お兄さん**

N・S女

**私のお兄さんは、気ややさしいです。**

**でも、ちょっぴりおこりんぼです。そして、私の気にいらないところもあります。**

**でも、とってもやさしいです。それは、えいがやどこかにお兄さんと二人で行くときは、いつでもやさしくかばってくれます。いつもだったら、いちばん下の妹をかばってばかりです。こうして二人で行った日がいちばんたのしいのです。**

**私は、こんなときのお兄さんが大すきです。**

鉛筆でかいたカット

**夜の私と妹**

H・H女

**ふとんの上で前回りをしてから、うしろ回りのれんしゅうをしました。だいたいうしろ回りができるようになったけど、よこにいってしまいます。前回りは、まっすぐできます。**

**お母さんが、「H子、おふろにはいりなさい。」といったので、妹と私は、おふろに入りました。そして、妹とあそんでいるうちけんかになってしまいました。妹と私はけんかをしながらよくあらって、おふろから出てきてもけんかをしていました。**

**そしたら、お母さんに、「H子とH美、けんかばっかりしとると、はだかで外に出すぞ。」と、しかられたので、けんかをやめました。**

**そして、体をふいて、シャツをきて、パンツをはいて、パジャマをきて、ももひきをはいてから、口をゆすぎました。**

**ふとんの中に入って妹といっしょにあそんでいました。おばあさんにしかられたので、ねました。**

## 料理研究家 長澤晶子のSPEED★COOKING!

### とっても簡単　手づくりうどん(釜揚げ風)

**お金をかけず手づくりも楽しめる一品です。**

**材料(4人分)**

うどん

Ⓐ 中力粉…2カップ
　塩　…小さじ½
　水　…½カップ

手粉(中力粉)…適量

しょうゆ…適宜

薬味…ねぎ・白ごまなど適宜

**作り方**

❶25×35㎝のポリ袋(しっかりしたもの)の中にⒶの材料を全部入れる

❷①の袋の底に手をあてて力を入れずにつまむようにしてポロポロの状態にして袋をとじ30分ねかせる

❸②の袋の口をあけて全体がまとまるようにし、袋をとじ30分ねかせる

❹台に打ち粉をして③をとり出し、めん棒で5〜6㎜の厚さにし、両面しっかり粉をつけ屏風だたみにし、好みの太さに包丁で切る

❺④に打ち粉を十分し、完成

❻鍋にたっぷりの湯をわかし、うどんを入れ、手早くゆでる

❼⑥を器に盛り、しょうゆをかけ、薬味をのせすぐ召し上がれ

## いべんと

**◎常滑市民文化会館**

▼文化振興事業・文化協会　第27回文協映画祭　おとうと・三日(日)一回目上映　正午〜　二回目上映　午後五時半〜

▼知多地方小中学校教育研究会　特別支援教育部会研究大会・七日(木)午後一時半〜同四時半

▼第17回愛知県生活科教育研究大会・八日(金)午後一時〜同四時半

▼文化振興事業　コーラスわんすてっぷ　第10回定期演奏会　ひびけ歌声コンサート・十日(日)午後二時〜同四時

▼第33回常滑市老人クラブ連合会芸能教室発表会・十六日(土)午前九時十分〜午後四時半

▼安全運転管理者講習会・二十二日(金)午前十時〜午後四時半

▼文化振興事業・文化協会　邦楽のつどい・二十四日(日)午前十時半〜午後四時

▼第27回中央公民館まつり・三十日(土)、三十一日(日)午前十時半〜午後三時

**◎常滑市立図書館**

▼青松会翠松会日本画展・五日(火)〜十四日(木)

▼青墨会展・十五日(金)〜二十四日(日)

▼平成二十二年度文化の日記念「文化振興事業」　第六十回新紀美術展・二十六日(火)〜十一月十一日(木)

**◎常滑市民俗資料館**

▼第三回企画展「常滑焼の貿易陶器」・〜十七日(日)

▼第四回企画展「重要文化財仏涅槃図と常滑水野家文書」・二十三日(土)〜十一月二十八日(日)

**◎常滑市体育館**

▼第40回全国高校バスケットボール選抜優勝大会知多支部予選会・二日(土)

▼バレーボール9人制講習会・二日(土)

▼第106回常滑市民バスケットボール大会・三日(日)

▼つぼさ幼稚園運動会・八日(金)

▼一万人卓球大会・九日(土)

▼市民スポーツフェア・十日(日)

▼スポーツ少年団運動適正テスト・十日(日)

▼卓球指導会・十六日(土)

▼少年少女スポーツ教室・十六日(土)、二十三日(土)

▼第57回常滑市民秋季市民卓球大会・十七日(日)

▼バドミントンくすのきオープン・二十三日(土)

▼バドミントンダブルス大会・二十四日(日)

▼第1回常滑市ジュニアバスケットボールオータムフェスティバル・三十日(土)

▼第2回常滑市ジュニアバスケットボールオータムフェスティバル・三十日(土)、三十一日(日)

**◎常滑市中央公民館**

▼ヤングカルチャー料理教室・十九日、二十六日、十一月九日、十六日各火・全四回・午後七時半〜同九時　内容　調理の基本を楽しく学びながら仲間作り　講師　松原容子さん　場所　中央公民館料理室　対象　市内在住・在勤の十八歳以上三十五歳未満の男女　定員　二十四名　受講料　千六百円　材料費　二千四百円　持ち物　エプロン、三角巾、布巾三枚、台ふき二枚　申込み期限　八日(金)

**◎鬼崎公民館**

▼協賛公開講座　少林寺拳法教室・十六日、二十三日、三十日(毎土・全三回)午前十時〜同十一時半　内容　少林寺拳法の基本・護身術　講師　少林寺拳法連盟愛知常滑支部　場所　鬼崎公民館講義室　対象　市内在住、在勤の小学生〜七十歳までの老若男女(女性歓迎)　定員　二十名　受講料　無料　服装等　体操のできる服装、汗ふき　申込み期限　十五日(金)

（5ページへ続く）

コーラスわんすてっぷ　第10回定期演奏会
《ひびけ歌声》コンサート　10.10(日) 13:30開場・14:00開演
会場　常滑市民文化会館ホール　常滑市新開町5丁目65番地(名鉄常滑駅から徒歩7分)　TEL 0569-35-3111
出演　コーラスわんすてっぷ(指揮：皿井由紀子)　印東智枝(ピアノ)/永井秀司(テノール)　合唱団みずすまし(指揮：水田哲夫)
主催　コーラスわんすてっぷ
問合わせ先　柿田：TEL0569-35-2009
入場無料

誠意をこめて安心のお手伝い
年中無休・24時間体制
(有)大阪屋葬祭
常滑ホール　鬼崎ホール　阿久比ホール
TEL〈0569〉35-4949(代表)
FAX 35-4911

知多の新鮮たまご発酵ケイフン
(有)知多エッグ
(有)知多エッグ
知多郡武豊二ツ峯380
TEL0569-73-6341

愛知県立大学名誉教授

# 山田正敏

## 『バリ島 行ったり来たり』(34)

### 《消えゆく〝日本のデンマーク〟――変わりゆく農村の生活――》

〈車窓に見る〝田舎〟の風景〉

◆

私のように後期高齢者という年令にもなると、自分の身体状況もさることながら、年上の血縁者のお見舞いや佛事で、田舎に帰ることが多くなる。

私の場合は、名鉄本線で金山駅から安城経由で西尾まで行き、義弟の車でそれぞれの場所まで送ってもらう。

母親の実家が西尾市の在である関係上、縁者や知人がこの地には多い。碧南市の自宅に帰るのも、20年ほど前から西尾―碧南を巡る〝便利な名鉄バス路線〟が廃止されたため、弟の杏話になり西尾経由で帰ることが多くなった。

私の生活・文化圏は、生れながらに、旧制中学・高校生活、今日まで、名古屋市と共に、依然として西尾である。

この西尾行きの電車の車窓の風景に、異変を感ずるようになったのは、今から十年余り前からである。もう少し前かもしれない。

駅舎が整備され、エレベーターが設置され……。各駅停車が減り、急行が増え、名古屋からの電車はほとんど安城の駅から西尾駅に直行――。

同時に、車窓に目をやると、〝田畑の緑〟は見えない。〝休耕地の茶色〟が目に映る。目を凝らすと、点在する新築の住居と駐車場の空地が目に映る。大規模な工場らしい建築物も田畑跡に構築されだしている。広大な駐車場広場も……。

◆

時を重ね、この路線に乗車する度に、安城から西尾方面にわたって、田畑に住宅が立ち並び、一戸一戸に駐車場が付設されている。

この型式のサラリーマン向きの〝個人まりした住宅〟が増え、当然のことながら田畑が宅地に侵蝕されだしてゆく……。

私には、瞬く間の現象のように見えた。田畑が工場に、そして、工場に働く人々の住宅や通勤のための車の駐車場に変ってゆく……。

この様子は、この路線の電車に乗るたびに、安城市より西尾市に向けて、伸び広がり、今や両市を分ける矢作川までビッシリ――。

この風景の伸びと広がり、そのスピードは、見る度に異様としか言いようがない。永い年月を経てのことならまだしも……。

〈〝田舎〟が、消えてゆく――。〝故郷〟が、変ってゆく――。〉

都会育ちではない私などは、今まであまり意識することもなく、自分の生れた処を、「田舎」といったり、それを「故郷」と呼んだりしてきた。

それが、この車窓の風景の、あまりにも急速な変貌を目のあたりにするにつけ、〝田舎〟とは、〝故郷〟とは……に、こだわり始めていた。

このように、言語に関して、その意味内容を明確にするためには、大学時代に知人になった、彼の父親・新村出編になる『広辞苑』で、確かめることにしてきた。それによると――。

『田舎』とは、家がまばらで、田畑や山林などが多いところ――と、説明してある。納得すると同時に、今まで私が〝田舎〟と言ってきた地域は……。この安城から、矢作川に至る地域は、もはや――、「田舎」とは言えない。大規模な〝住居地域〟――で、ある。この〝変貌〟に、私は、〝異様さ〟を、痛感したのだろう。

『故郷』とは、「自分の生れた土地」――。簡潔な説明に疑問の余地はないが、その〝自分の生れた土地〟故郷の生活の中味は、当時の面影を見い出せない事も少なくない。本人が高齢化すれば、するほど――。

〈「安城」が〝日本のデンマーク〟と呼ばれる「由来」を知る〉

この安城から西尾に至る車窓に浮かぶ農村は、見事な稲田と畑に充ち、〝季節の移ろい〟まで、伝えてくれる。

◆

思い起こすと、私が旧制中学一・二年生の頃、今から六五年余りも昔のことである。当時は勿論、戦時体制下――。年に一度、一・二年生は木製の、上級生は、鉄製の本物を擬した鉄砲を担がされ、西尾―安城間を往復、隊列を組んで行進させられた。「軍事教練」という教科の一環で、「行軍」と呼ばれるものである。

夏休み前の季節であったように思う。矢作川を渡ると安城までは一本道――。炎天下での行進は、辛い。道路の片側は民家が並び、道路のもう片側は、緑も濃く稲の背丈も伸び、根元で茎がしっかりと枝わかれし、一株一株が太く、見るからに良く育った稲田が広がる。そこを渡る風は、爽やかで涼しく　心地よい――。

単調な炎天下の「行軍」の、一服の清涼剤であり、一株一株の稲の育ち振りの、観察意欲まで高めてくれる。

◆

途中、神社の森の木陰で「小休止!!」の号令で、一と休み――。森の木立の涼しさは、〝稲田のその風〟の比ではない……。

その折り、今では、そのお顔も、お名前も思い出せないが、ある教師が、上級生に向かって、講話を始められた。「この安城ヶ原の農地は、もともと不毛の地であったが、当時代官であった都築弥厚という人が、大名や旗本、寺院などの反対があるなか、それに屈せず、私費を投じて、十年がかりで測量し、近くの矢作川から水を引き、水田を造る目的で用水路を造る計画を立てた。やっと許可を得たが不幸にして目的を果たさず病死された。

その後、地元で資金を集め、明治に入り着工。用水は完成し、〝日本のデンマーク〟といわれる先進的な農村に育っていった。

その用水が、この『明治用水です』……。」

都築弥厚と明治用水、〝日本のデンマーク安城〟との繋がりとその由来がよくわかり関心を掻き立てられた。教職にあった父親の書棚にあった関連の本も読み、父からも話を聞いた。

先人の農業にかける情熱の厚さと行動力には、中学生ながら感服させられた。その思いは、今もって私の中にある。都築弥厚も明治用水も、当地の人々の脳裏から消え、現実、あの広大な豊穣な、しかも平地の田畑が消えてゆく――。

日本のデンマークも、今や〝デンパーク〟の観光地に変質・矮小化され、いずれ寂れていくだろう。日本の食料自給率は、40年ほどの間に7割から4割を切った。先進国では最低水準。狭い農地に棚田を刻み、米づくりに勤しむバリの農民は、〝日本の消えゆく田畑現象〟を、どう見るだろうか――。

バリ島の棚田（ジャキルウィル村）

# 連載●ほりお教授の紀行文学シリーズ
# ロマンチック沖縄旅物語

首里城　歓会門

## 第一回 中秋の名月、イン沖縄

堀尾　幸平

いくつかの原稿の取材で、夏のうちに、どうしても沖縄へ行きたかったが、他の日程や仕事の段取り、台風などでなかなか調整がつかなかった。だが、仕事、ことに受注した原稿をそんなに先送りすることもできない。そこで、講演やイベント、私的用事のすべてを思い切って前後に押しやって、九月下旬、やっと一週間ほどの旅行期間が生み出せた。

特にありがたいことに中秋の名月を中にはさんでいる。沖縄で見る名月はどんなものかという関心と期待で行程作成の時から胸がときめいた。そこで、この連載も、まずは沖縄での中秋名月からスタートする。

中秋の名月の当日は、九月二十二日㈬。快晴。私は那覇市周辺で、連日三十余度の猛暑の中で写真を撮り、何人かの沖縄の人にインタビューをつづけて、正直に言って、かなり疲れた。

だが、今宵は中秋の名月、というわけで早めに仕事の区切りをつけて、日没と共に全くプライベートな気分で街にくり出した。そして初体験となる沖縄での月見をしっかりと味わおうと心に決めた。

それにしても沖縄でのお月見の風習はどんなものであろうかと民家や個人商店をのぞいてみたが、それらしい気配はなかった。私たちが子どもだった頃、飾っていたススキや萩、月見だんご、里芋等のお供え物はどこにも見当らない。沖縄では現在、そういうお月見の風習は行われていないらしい。

たまたま通りがかった外国人らしきカップルに、東の空に出たばかりの満月を指さして「オ月サマガ、デマシタネ」と話しかけると「オー、イエス」と返ってきたものの特に興味を示すこともなく、通り過ぎていった。

那覇・国際通り界わいは名前のごとく那覇市の目抜き通りで、宵から多くの人々でごった返していた。みやげもの屋、飲食店、ゲーム、宝石、民芸品、衣料品等、ありとあらゆる店舗がぎっしりと並び、通りは祭りムードで人々が往き来している。老若男女、さまざまな服装の人たちが集って来ているが、若い人たちが圧倒的に多く、みやげ物を買い漁る高校生たちの制服も目につく。

共通して、みんな、一様に明るく、楽しく連れと談笑しながら歩いていく。沈んでうつむいている者はひとりも見当らない。だれもかれも今、この時の人生を明るく楽しくおう歌している。

そうしたにぎやかな那覇、繁華街の空に、やがて中秋の名月が、大きく出た。だが、ほとんどの人は、今宵の名月などに関心も風情も示してはいない。

そう思うと、沖縄の空の満月が、どこか孤独で哀れにも見えた。

人波に流されるように歩いていくうちに沖縄らしい店の雰囲気に誘われて、にぎやかなライブハウスに入った。広い店内は若い男女でほぼ満席で、低いステージで三十代の長髪の男性ミュージシャンがわめくように歌っていた。

沖縄に来たのだから、いつものビールはやめて、アワモリを注文した。たちまちきつい匂いと味が全身をかけめぐった。

酔いがまわったころ、四角い額縁のような窓の中央に大きな満月が丸く収まって見えた。まるで一枚の絵のようだ。

「ああ、これが、沖縄の月か――」

もちろん、月のきちんと見えそうな場所を予想して、席をとっている。

国際通りも店内も楽しくにぎやかだが、この席から見る沖縄の月は、静かに落ちついて気品をたたえながら中空に浮んでいる。急に誘発された風流心か、はたまた日ごろの教養（？）のせいか、とにかく今宵の満月は格別で、清く澄んで最高に楽しく、どこか温かい色で輝いている。

**明月や　母の乳房を　想ひけり　幸平**

即興の句に自分で酔いながら、アワモリを味わっていると、突然、美代からメールが来た。名古屋で一時仕事を手伝ってもらった女の子。独身。美代は仮名である。

「今、名古屋は曇、時々雨。でも現在、雲の切れ間から、お月さまがほんの数分、お顔を出している。あの晩のように美しいわよ」

私は、ふと十年ほど前、彼女とドライブで眺めた三河湾の名月を想い出した。

「すごくきれいよ。あ、隠れちゃった…」

美代の甘ったれた声がメールの奥から聞こえてくるようだった。あの頃と少しも変わっていない。私は、ふと前掲句の「母の」を「美代」に替えてもいいと思った。

我にかえって見回わすと、名月をよそに店内はひどく盛り上がっていた。

「涙そうそう」をはじめ、若い歌、沖縄の歌等が次々に流れた。客の若い男女は、ほとんど歌を知っていて、みんなで口ずさみ、リズムにのって体を動かした。

三十代の男性歌手が、ギターとハーモニカ、それに両脚にまきつけた金属製の貝殻ジャラジャラ（？）を使って精力的に歌いつづけている。

「何か、リクエストしませんか」

ウエイターに言われて、私は、すかさず窓の満月を見て「十五夜お月さん」と用紙に書いた。それをウエイターから受け取ったミュージシャンが、ちょっと首をかしげて「イントロは？」と聞いてきた。私はワン・フレーズ、応えた。

**十五夜お月さん／母さんに**
**も一度わたしは／会いたいな**

周囲から大きな拍手と笑いが湧いた。

「スイマセン。童謡も練習しておきます」

ミュージシャンは、申しわけなさそうに頭を下げて、次の歌にうつった。

夏川りみの歌。やはり何人かの若者が一緒に歌った。

にぎやかな雰囲気に酔っていると、突然、「こんばんは」と髪の長い眼鏡の若い女性（といっても三十代らしい）が私の席に寄って来た。

「ワタシ、野口雨情が大好きです。『十五夜お月さん』一緒にデュエットしませんか」

植樹するマングローブの苗を持つ筆者

眼鏡の奥の大きな目がライトに光っている。遠い日の恋人に似ているので、私は急に顔が赤くなるのを覚えた。

「ねえ、歌いません？」

彼女はコケティッシュに催促してきたが、私は自分でもおかしいくらい遠慮してしまった。

私は、仕事とは別に、ひどく気の弱い遠慮深い性格で、若い頃から、かなり損をしてきた、と今も後悔をしている。

彼女もアワモリで「これで五杯目よ」と笑ったが少しも顔に出ていない。強い女の子なのだ。

彼女は、かなり前、中央大学の法学部を出て、現在M市役所で都市計画の仕事をしている公務員だと初対面の私に自己紹介した。

「年に三、四度、こうして沖縄に来るのよ。それが今の生きがい。野口雨情も、沖縄も、ここのライブもみんな好き。大好きよ」

彼女は、こころもち厚い唇で、ゆっくりと得意げに話した。

「だれと来てるの？彼氏？」

「ひとりよ。ワタシ、いつも、ひとりよ」

それから、かなり長い時間、私たちは、たわいもないことを話し合ったが、それも次第に人生相談みたいな形になっていった。

「どういう家族構成？」

「さっきも言ったでしょ。ワタシはひとり。ひとりが好きなのよ」

彼女は私の顔を見つめて、念を押すように言って、また笑った。

店の時計は十一時をまわって、満月はだいぶ上空に移動している。

私たちはメールアドレスを交換して、軽く握手をして別れた。

私は不意に与謝蕪村の句を思い出した。

**月天心　貧しき街を　通りけり　蕪村**

この句のせいか、明るく、にぎやかな那覇の街が急に「貧しき街」に見えだした。それと同時に私の心の奥まで言い知れぬさみしさがこみあげて思わず涙がこぼれそうになった。やがて、私は、先ほどまで親しく話し込んだ、あの都市計画嬢と「十五夜お月さん」を歌わなかったことを後悔しはじめていた。

イン・沖縄。中秋の十五夜お月さまは、天空高く、いっそう美しく輝いていた――。　（つづく）

沖縄の海で泳ぐ筆者、若い！（2010.9.22）

《筆者紹介》
ほりお・こうへい。作家、「日本学術出版」代表。元愛知淑徳大学文学部教授　著書多数。現住所、名古屋市南区元桜田町四―五五。

# 知多の動植物雑記（二六五）

原　穣

「毎日毎日、暑いネ…」だけが挨拶となっていたこの夏も、先月中旬頃から夕方に吹く風に、いささか涼しさを感ずるようになった。

折も折、中日新聞夕刊の「夕歩道」に「秋来ぬと目にはさやかに見えねども…」（古今集　巻四）が掲載されていたが、まさに今だネを実感していた。

そして庭に出れば、何と！カナヘビがバッタをくわえて目の前へ出てくる。ワーこれはこれはと、カナヘビさんに「ちょっと待ってゝね、カメラ取ってくるから」と家へ飛び込みカメラを持って出れば、何と！そのまゝの姿勢で待ってゝくれた。

カメラを構えて「ハイ、ポーズ！」でパシャ！であったが、その姿、顔つきは、まさに「ちたろまんに載せてネ」そのもの。

もう一枚！と思って構え直せば、「もういいでしょ、バイバイ」といわんばかりに草間に姿を消してしまった。

カナヘビさん　ハイ！ポーズ

わが家の庭先には、夏の初め頃になると、尾の青いトカゲ（幼体）がチョロチョロとはい廻っているが、なぜか夏のさ中の頃は、成体になって光沢のある鱗に包まれているはずのものが、餌を求めて他所へ行ってしまうのか、その姿はない。

勿論カナヘビだって、いつも目にするわけではないけど、あゝいたいた程度で姿を見せてくれる。

でも、全長の2/3を占める、長い尾と、がさついた感じの鱗、眼の下から脇腹にかけて、細い黒帯にはさまれた鮮やかな黄白色の線が走る姿に魅せられ、追っかけマンになっているが、この鮮かな色帯も個体によって違いがあり、雌は雄ほどはっきりしないようである。

小さな昆虫やクモを餌とし、草むらや人家の庭先に暮らすカナヘビ。性格はトカゲに比べて無用心なので近寄りやすい。だから写真撮れたのかな。

# 遺跡

## 町の考古学

### 古代の船（百五十六）

奥川弘成

国内で発見された最も古い船は丸木船です。一本の太い丸木を割って、中をくりぬいていたことから、刳船（くりぶね）ともよばれています。

福井県鳥浜貝塚では五千年以上前の縄文時代の地層から丸木船が出土しています。全長が六メートル、幅五十センチほどの大きさです。使われたのは真っ直ぐに伸びるスギで、割りやすく軟らかい材木が選ばれています。

また、千葉県加茂遺跡で出土した丸木船は、ムクノキが使われています。ムクノキはあまりなじみのない木のようですが、「武豊の古樹大樹」で選定されている中では、下門の駐車場、武雄神社、教福寺などがあげられています。

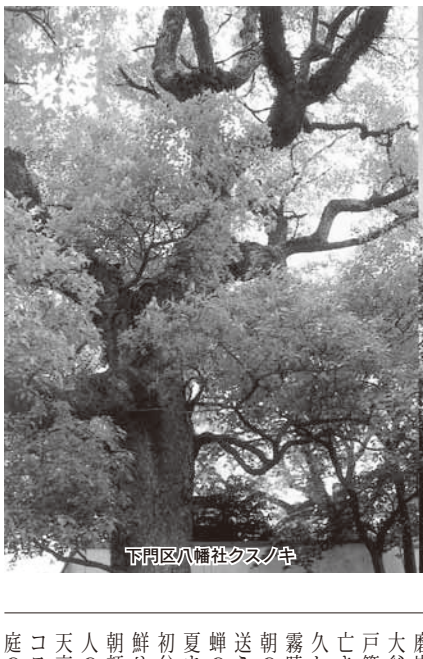
樹木ガイドブックでは、成長が早く高さが二十メートルほどになり強風に耐え、特段の病害虫もないことから防風や神社境内、公園の木に適しているとあります。町内のムクノキをみれば、枝をつけない幹が根から真っ直ぐに伸びているのを見ると、縄文人たちが、石斧で切り倒し船を造ろうとした様子が思いうかんできます。

福井県ユリ遺跡では、縄文時代後期ころの丸木舟が九艘出土しています。その中には、船底の内や外を火で焦がした痕が残っていました。石で作った斧で加工をしていた縄文人たちがより早く、容易に船を造ろうとした工夫であったようです。

石斧から鉄など金属で作った道具が使われ始めた弥生時代、古墳時代以降、船は大型となったようです。船底は従来と変わらない丸木が使われましたが、横幅を広くするために巨木を割り、それを船首や船尾などいくつかに分割して造り、つなぎ合わせていたと考えられています。

この巨木は武豊町の木となっているクスノキがよく使われていました。下門区の八幡社で武豊町指定文化財となっているクスノキ群には、幹の太さが三メートル以上あります。この材料を加工すれば、縄文時代の丸木舟とは全く違う、安定性のある大型船を造ることができました。

古代の船に使われた巨樹



下門区八幡社クスノキ

武雄神社ムクノキとエノキ

「武豊の古樹大樹」より

## ちょっとおじゃまします

四代目　素三　亀岡克史さん

培った熟練の技に独自の遊び心を加えた三代目・素三のぐい呑みは実にユニークだ。多くのファンに愛された三代目のぐい呑みは、三代目を語るうえで欠かせない代表作となっている。朱泥のぐい呑みの中に蟹や鯛などの海で生息する縁起のよい生きものがあしらってある。だから、お酒をグイッと呑んだら蟹や鯛などが、ひょっこりと顔を出しているといった感じだ。今もなお、三代目の作品を求めて、四代目の工房を訪ねてくるファンは少なくないという。四代目の手元には、三代目が遊び心で作ったと思われる手のひらにのるくらいの大きさの蟹のオブジェが残っているだけだ。

三代目から受け継いだぐい呑みに、知多半島の豊かな海の生きものが意匠化され、四代目のこれまたおちゃめな表情をしたタコやイカ、細部にまで忠実に表現した蟹や伊勢海老、リクエストから生まれた鶴と亀などのぐい呑みが生まれた。三代目が亡くなり四代目を継いでいくうちに、三代目の功績がいかに素晴らしかったのかと改めて気づくという。つづく表情のあるぐい呑みは一期一会であって、動物の胴体、急須の手は動物のしっぽといった具合に。これらの急須は繊細な輝きを放ち、毎年どんな新しい息吹を吹き込んでくるのかとコレクターは心待ちにしている。

他にも、七宝柄の急須、七宝彫りの急須、縞彫りの急須や松皮模様の急須も見逃せない。七宝彫りの急須は、梅・桜・椿・紅葉などをデザイン化し、彫り、色をつける。細工と絵を合わせた急須だ。四代目の定番中の定番作だ。

四代目の想いは、日々是丹精。「今がいい作品を作っているはず」と、柔和だった顔に鋭さが増した眼で断言した。だから、体力維持も怠ることをしない。早朝、常滑の海岸を背景にウォーキングをする四代目の姿がある。

（赤井　伸衣）

周囲に明るい気持ちをプレゼントしてくれる。そんな空気が伝わってくる。

四代目の魅力をクローズアップさせたのは、新感覚の「干支の急須」シリーズである。目が小さく、可愛く作ってはいけないという思いがあり、酉が一番難しかったと苦労話を聞かせてくれた。急須の口は動物の口、急須の胴は

## いべんと

問合せ　澤田広通☎35―6143

**◎知多市地域文化センター**

▼創作クラブ『へんな生き物』・一日（金）～三十一日（日）午前九時～午後四時半　内容　綿を入れたくつ下やゴム、軍手などを使って、おもしろい形の生き物を想像して作ります　材料費　一個百円

▼季節の工作『ハロウィン』・二日（金）～三十一日（日）午前九時～午後四時半　内容　ハロウィンの飾りや衣装を作り、ハロウィンを楽しみます　材料費　一個百円

▼いろあそび1『ちゃいろにかさねてそめよう』・二十日（水）～三十一日（日）午前九時～午後四時半　内容　茶色、緑色、黄色を組み合わせて、秋色に染めます　材料費　一枚二百円

▼いろあそび2『藍染』・二十日（水）～　午前九時～午後四時半　内容　藍の色を楽しみながら染めます　材料費　一枚四百円　その他　限定三十枚

▼『ふれあいミニミニコンサートチビッコ広場』出演者募集・十二月二十二日（水）午前十一時十五分～出演時間　二十～三十分　内容　地元の音楽家や、楽器の好きな方に、就園前の幼児や親を対象に、子ども向けの音楽を演奏してもらいます　出演者数　一組　申込み多数の場合は主催者で調整　申込み　十一日（月・祝）まで

**◎ギャラリー共栄窯**

▼器展　冨本大輔・十六日（土）～三十一日（日）

**◎ギャラリーCera（常滑市観光プラザ）**

▼畑中圭介展・一日（金）～十一日（月・祝）午前九時～午後五時半

▼森和彦陶展・十五日（金）～二十五日（月）午前九時～午後五時半

▼山本宣光陶展・二十九日（金）～十一月八日（月）午前九時～午後五時半

**◎常滑屋**

▼アトリエ紗衣・坂井よし江「毛糸と布帛で楽しむ帽子とベスト」・一～三日（日）

▼草木染織二人工房　中島和子「縞・いろ染織展」・五日（火）～十日（日）

▼萌「大人可愛い、萌の服」・十二日（火）～十七日（日）

▼はちはち「天然色手染め工房…はちはち」・十九日（火）～二十四日（日）

▼たみこ『My room』幸せな空間」・二十六日（火）～三十一日（日）

**◎陶芸サロン陶美園**

▼第十三回　あたたかい服展　中根由美子・二十三日（土）～三十一日（日）

**◎ギャラリーセピカ（まるふく内）**

▼水野真澄展・一日（金）～十一日（月・祝）

▼森遊子陶展・十五日（金）～二十五日（月）

▼四代山田常山作陶展・二十九日（金）～十一月八日（月）

**◎ギャラリーとこなめ（常滑市陶磁器会館内）**

▼萩と粉引　やわらかな風合いの器展　水無月窯・辻正博・九日（土）～十七日（日）午前九時～午後五時

▼常滑陶彫会・二十三日（土）～二十九日（金）午前九時～午後五時

**◎方円館**

▼近藤陽子展・一日（金）～十三日（水）

▼堀田憲現展・十五日（金）～二十七日（水）

**◎武豊町立図書館**

▼洋画展（木の葉会）・八日（金）～二十日（水）

▼読書感想画展（小中学生）・三十日（土）～十一月二十八日（日）

**◎武豊町歴史民俗資料館**

▼木造和船の歴史展・十七日（日）～十一月二十八日（日）

**◎武豊町中央公民館**

▼福寿大学⑥『武豊　この町で元気に生きる―スポーツは健康の源泉―』・二日（金）午前十時～午後一時　定員　二百五十名（六十歳以上）　無料

▼家庭教育セミナー親業訓練入門講座『子どもとのかかわり方や上手な話の聞き方』・七日、十四日、二十一日、二十八日（各木・計四回）午前十時～正午　定員　二十五名（子どもを持つ親）

▼家庭教育セミナー『思いやりの心を育てましょう』どこかで聞いた言葉でも本当にそう思ってる？人を受け入れるとはどういう事かを体験します・十二日（火）午前十時～正午　参加費　無料　問合せ　知多家庭教育研究会　山下☎72―1902

▼親業体験・学習会『みんな違ってみんないい』・十二日（火）午前九時四十五分～正午　参加費　千百円　問合せ　親業サークル　稲葉☎72―7138

▼犬のしつけ方教室『小型犬対象　講習と実際の訓練』・二十三日、三十日、十一月六日・十三日（各土・計四回）午後二時～同四時　定員　十五名（飼主と小型犬）　参加費　千二百円

**◎武豊町民会館**

▼ドラム教室・七日（木）、十四日（木）、二十一日（木）、十月十日（水）、十八日（木）、二十五日（木）（計六回）　定員　十名（小学生以上）　参加費　五千円（スティック代別途）

▼ハロウィンパーティープレ企画☆ゆめホタルmini製作教室・九日（土）①午前十時～正午　②午後一時半～同三時半　定員　各十五名（小学三年生以下は保護者同伴）　参加費　千円

☆魔女とドラキュラの夜会準備・十日（日）①午前十時～正午　②午後一時半～同三時半　対象　年長児～大人（十六日（土）仮装ファッションショーに出れる方・小学三年生以下は保護者同伴）　定員　①、②共十名　参加費　五百円

▼第十一回　文化協会文化祭・十一日（月・祝）

▼あいちっとども芸術大学二〇一〇　みんなであそぼ☆わくわくダンス☆・十六日（土）①午前十時半～正午　小学一年～小学三年生　②午後一時半～同三時十五分　小学四年～中学生　①、②各十名　無料

▼ゆめプラモーニングコンサート『ドイツの歌とやさしいお話』・二十日（水）午前十時半開演　出演　安田淳子（お話）陶山みち子（ピアノ）中田淳子（ソプラノ）　チケット　五百円（ドリンク付）

▼武豊町商工会六十周年記念講演『よしもと新喜劇&バラエティーショウin武豊』・二十二日（金）①昼の部　午後二時開演　②夜の部　午後六時開演　出演　池乃めだか、島田珠代、内場勝則、オール阪神・巨人、大木こだまひびきなど

▼音訳ボランティア養成講座・二十六日、十一月九日、二十三日、三十日（木）・計五回）午前十時～正午　定員　二十名　無料

▼ビデオ編集体験講座（パソコンビデオ編集ソフト使用）・三十日（土）、三十一日（日）、十一月六日（土）（全三回）午前十時～午後三時半　定員　十六名（小学五年生以上）　参加費　無料

**◎武豊町総合体育館**

▼武豊の魅力を再発見！知る・観る・味わう秋の一日『武豊ウォーカ』・十日（日）午前九時～午後三時　町内四コースのウォーキング、お楽しみ抽選会、各スポーツクラブの発表会ニュースポーツ体験・武豊たまおにぎり味比べ・昔懐かしい富貴コロッケなどの模擬店など・小雨決行（予備日十一日（月・祝））

▼秋季町民バドミントン大会・十七日（日）

**◎おおあし児童館**

▼さつまいも掘りとおやつ作り・九日（土）午後一時半～同二時半

▼木の実・木の葉で作ろう・三十日（土）午後一時半～同二時半

**◎くすのき児童館**

▼竹とんぼ作り・十六日（土）午後一時半～同三時

▼くすのき運動会・二十三日（土）午後一時半～同三時

**◎長尾児童館**

▼ながお運動会・九日（土）午後一時半～同三時

▼カローリングをしよう・十七日（日）午後一時半～同三時

▼芋掘り&焼き芋会・二十三日（土）午後一時半～同三時

**◎東大高児童館**

▼芋掘り&焼き芋会・十六日（土）午後一時半～同三時

▼おもちゃ工房・十七日（日）午後一時半～同三時半

※四館共通行事

▼わんぱくクラブ・七日、十四日、二十一日、二十八日（各木）・一日、八日、十五日、二十二日、二十九日（各金）それぞれ午前十時半～同十一時半　計九回

**◎半田空の化学館**

▼十月の星見会『子だくさんの星木星―地球の衛星は月一つなのに、木星は今現在六十個ほどの衛星が確認されています。さて、今日はいくつ見えるかな？』十六日（土）午後六時～同八時半　定員　六十名（小学生以上）　参加費　大人　三百円　子ども　二百円

**◎碧南日竹木材　白竹ギャラリー**

▼『秋の装い』組み合わせを楽しむ　作家「斉の服」創作服（木下真弓）・「来夢」創作アクセサリー（橋本昌子）・手織りのショール（西口三代子）・手作り糸の帽子、プチマフラー（黒柳ちあき）・十五日（金）～二十日（水）

## 若竹俳壇

作品募集　毎月十日までに葉書で発行所へ

政界に昏迷続き秋暑し　吉田ひろし

冷房に逃げ込む昼や紺のれん　谷川と志江

金平糖降り散くごとく百日紅（さるすべり）　塚本　千鶴

揺椅子にまどろみながら虫の声　小島　彩

愛犬の腹ばい眠る秋暑し　関　里美

食糧を担いで急ぐ秋の蟻　村田　政子

冷蔵庫喘ぎ三十五度を越す　斉藤　浩美

更新の地震保険や防災日　山下　悠児

墓参帰り一輪無縁塚　竹内三千彦

熱帯夜記録やぶりとなりにけり　岩田つま子

髪洗う今たどいまの中学生　谷川　利子

湯舟まで響き来る声鉦叩　村井みさを

日中の暑さを残す夕茜　幾世八千代

熱帯夜熟睡出来ず夜明かな　磯村美耶子

御岳の五合目なれど秋暑し　林　京子

磨崖佛口一文字つくづくし　河瀬四四子

大釜の尻を見上ぐる芋煮会　冨田　悦子

戸籍上生きている人夏の怪　浦崎ひとみ

亡き人の好きな花生け魂迎（えみ）　藤井　文月

久しぶり母の笑顔り盆踊り　杉江　夕工

霧晴れて阿蘇の勇姿がくっきりと　清水ドラ吉

朝の膳ひんやり無花果二人きり　高谷達之輔

送られしメロンの味は愛の味　杉江　ちゑ

蝉の声忙しげに鳴く森の中　杉江　キヨ

夏まつり金魚すくいに胸おどる　諏訪　清子

初盆に父の面影握りしめ　井野　洋子

鮮やかな衣装をまとうほおずきよ　岩橋　美幸

朝顔の日毎に高し花の位置　荒川　達雄

人の世の悲しさ想うちちろ虫　竹内ユミ子

天高し孫の身長父母を抜く　渡辺　民子

コスモスの花びんにあふれて指切りす　中村　洋子

庭の池映りし小さき月を見る　伊奈　五郎


鯉江良二 展

常滑出身で世界的に活躍されている鯉江良二氏。今展では、花器や茶盆、酒器など海外にて制作した作品を中心に展覧即売いたします。

角 有伊と角漆工房 展

2005年秋に他界された故 角 偉三郎先生の意志を受け継いだ角 有伊氏のオリジナル作品と、合鹿椀をはじめとする様々な角工房の作品を展覧即売いたします。器と塗が融合した角芸術をお楽しみください。

鯉江良二「カタロニア手鉢」1990年 径31cm

角　有伊「雨だれ文角長手盆」幅36cm
角漆工房「黒塗のそき盃」高さ5.5cm
「朱塗合鹿椀」高さ11cm

2010年10月6日(水)→12日(火)

※最終日は17時に閉廊させていただきます。

名鉄百貨店本店[本館] 10階クローバーサロンⅠ
ダイヤルイン=052-585-2841

meitetsu 名鉄百貨店

〒450-8505
名古屋市中村区名駅1-2-1
Tel.052-585-1111
www.e-meitetsu.com

## わが家のニューフェイス

中野　歩美（あゆみ）（3才）　武豊町字砂川

こんにちは。歩美3歳です。パパとママとバスで旅行したよ。富士サファリパークでは、ライオンやキリンなど動物を見たよ。小さいカンガルーには、エサをあげました。エサを持っていると近くに寄ってくるから少しこわかったです。夜は、温泉にも入ったの。プールみたいに大きくて楽しかったです。パパとママ、また旅行に連れていってね。

写真・文　中野雅之

## 愛と My Family

お母さんといっしょ

さしてママに教えてあげるんだよ。いつも、パパと一緒にチョロQの追いかけっこして遊んでるから、ハイハイがとってもお外も大好き!!滑り台をハイハイで登ったり砂場で遊んだり。ママは早く歩いてね。て言うけど、僕はまだまだハイハイが楽しいんだ。

石川　天喜（てんき）（1才3ヶ月）
常滑市西阿野

こんにちは☺天喜ですぇ。車と電車が大好き!!走ってるのを見ると「あっ」って指

写真・文　石川里恵

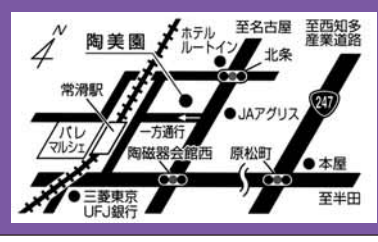

## あたたかい服展

●中根由美子

秋から冬へ。ウールのジャケット・ベスト、
フェルト＋手編みのマフラー、二重織シルクのスカーフ、
身も心もあたたかくなる服展をお楽しみ下さい。

2010.10/23㈯-31㈰
10:00-17:30［定休日10/27㈬］

陶芸サロン
陶美園
〒479-0838
常滑市鯉江本町6丁目36番地
☎〈0569〉35-2320




## 第7回 あっちべたこっちべたフェスタ2010

10/23㈯.24㈰
午前10時～午後5時
メイン会場は23日午後9時まで

**開催場所**　やきもの散歩道界隈・あっちべたこっちべた通り沿い一帯。

**協賛会場**　ヤマタネ招き猫まつり、常滑焼急須館イベント、
まるふく陶製灯りスタンド陶芸体験、
常滑駅前ウィルセラ・招き猫イベント

**内容**　セントレア開港前に開催し、今年で7回目を迎える
「あっちべたこっちべたフェスタ」は、常滑と知多半島が持つ
様々な魅力を街を巡り歩きながら楽しめる、秋の一大イベントです。

**イベント**

**会場**　本部・B級グルメ屋台広場（やきもの散歩道大駐車場）

- 両日先着500名様に「あっちべたこっちべた千社札」プレゼント！
- スタンプラリー：4箇所周れば招き猫シールプレゼント！
- 町並みライトアップ：煙突、招き猫通り、一木橋をライトアップ！

**24日㈰のみ開催特別イベント**

- **街並みフリーライブ広場**
  屋外ステージと屋内ステージの2ヶ所で無料ライブ開催
- **レスキュー＆キッズイベント広場**
  セントレア化学消防車展示記念撮影
  山形県観光PR（新米つや姫試食）
  半田市観光協会「ごんぎつね」イベント
  武豊町観光協会「味噌のすくい取り100円」イベント

問合せ　常滑市観光協会　☎0569-89-6561